

『うっかり』と『持ち味』

先日、タイトルにある内容のコラムを目にしました。

みなさんは『うっかり』と聞いてどのようなイメージを持たれますか？

ほっこりする良いイメージをもっていたり、しっかりとしていないと悪いイメージをもっていることもあるかもしれません。

うっかりには…

①ぼんやりして注意が行き届かないさま。

②心をひかれて他に注意が向かないさま。うっとり。 という意味があります。

日本保育学会を創設した初代会長の倉橋惣三さんは

その人の味はうっかりしている時に出る。うっかりしている時に出る味でなくては、真にその人の持ち味とはいえない。教育の一番ほんとうのところは、屢々（しばしば）その人の持ち味によって行われる。まして相手が、謂わば、最もいい意味で終始うっかりしている幼児たちである場合、我々のうっかりしている時が如何に教育的に大切なはたらきをなしているのかは考えられる以上であろう。うっかりという言葉、うっかりする動作、であい頭に、うっかりと見せる顔。その時出る我々の持ち味こそ…とって いくらい持ち味の人でも、うっかりばかりしてはなるまい。とってまた、わがもち味をつつもうとして、うっかりしている時の全くないのも、つくろいにぎよう。そこでこそ、幼児教育はむつかしいものと今も昔も言われるのである。』

という言葉を残しています。子ども達が生きるということはひらめきや発見、変化がつきものであり、たくさんの刺激を感じるので、②のうっかきの連続とも言えます。①のうっかりは大人にもあります。そんな時に子どもはどのような反応をしますか？きっと笑って許してくれると思います。

大人も子どもの①のうっかきに寛容でありたいものですね。

昨今、一斉保育、詰込み教育、記憶教育など、ひと昔前の教育から主体性ある保育やウェルビーイング保育に変化しています。

日々子ども達からは「こんなことがやりたい」「みてみて、みつけたよ！」「あれ知っているよ」「（自分が持っているイメージがあるから）手伝って」とさまざまな言葉が聞こえてきます。

大人は「そうだね」「一緒にしてみよう」と子ども達の自己実現を叶えるため気持ちを受け止めています。

- ◎自分が認められているという環境の中で生活し、自由に選択できる機会が多くある
- ◎興味や関心に応じた多様な活動や経験が出来る
- ◎個性や強みが認められ、感情や気持ちを受け止めてもらい共感や励ましがある
- ◎適切な時期に期待や責任感を持たせてもらえる

これにより幸福度が高まってくると言われます。

今年度、園では子どもの力を信じて任せたり、自分で選び自己決定する機会を増やしてきました。特に年長児は行事での役割や異年齢でのお世話、ぱんぷきんマーケットの準備など、より責任感ある活動にも取り組みました。

これにより、子どもの自尊心・創造力・想像力・社会性やコミュニケーション、そして感情調整能力も高まり、他者への配慮や尊重が身に付いていくことを願っています。

(北嶋)